



この「まちづくりニュース」は、「からと まちづくりワークショップ」の開催内容や参加者の意見、取りまとめた成果などを市民の皆さまにご報告するために発行しています。

第5回テーマ

「からと」の将来像を共有しよう！

7月26日(日)、下関市役所にて、「第5回 からとまちづくりワークショップ」を開催しました。今回は14名にお集まりいただき、3グループに分かれて検討していただきました。最終回となるワークショップでしたが、新たに7名の方にご参加いただきました。

最初に、唐戸商店街周辺のまちづくりの中核を担う「一般社団法人からまち※」から、活動の紹介と現在の商店街の実情についてご報告いただきました。空き家・空き店舗の実情を聞き、10年後の「からと」を想像しながら、地元だからこそ分かる「口コミ空き家・空き地情報」を出していただきました。

続いて、過去4回のワークショップの成果を踏まえた「からと」の新たな軸と拠点の考え方、整備方針・整備手法の概要を事務局から説明しました。グループワークでは、それぞれ

の軸や拠点ごとに優先順位の高い整備方針を選び、地図にまとめました。その後、検討結果を発表していただき、それぞれの軸や拠点でどのような整備をするのが望ましいか、全体場で話し合いました。

最後に、感想カードにご記入いただき、ワークショップを終了しました。

地元で議論するワークショップはこれで終了となります。今後は、議論いただいた内容に基づいて、定住・交流人口の拡大や商業の活性化など、魅力的なまちづくりを目指すための指針となる『市街地総合再生基本計画』を作成し、皆さまに公表する予定です。ご参加いただき、ありがとうございました。

※「一般社団法人からまち」は以下の法人として市が指定しています。

- 都市再生推進法人：地域の主体的なまちづくりの推進を図る活動を行う法人
- 地域再生推進法人：地域住民に近い立場で地域再生の推進を図る活動を行う法人

第5回プログラム

- ステップ1：はじめに
- ステップ2：「からと」の実態と向き合おう
- ステップ3：まちづくりの軸と拠点をつくるためのアイデアを整理しよう
- ステップ4：「からと」の整備方針について全体で話し合おう
- ステップ5：まとめ

全体のワークショップの様子



※本ニュースに掲載している、当日参加者の皆さまにご記入いただいた内容については、内容の趣旨を尊重するため、明らかな誤字を除き、原文のまま掲載しています。

「からと」の実態と向き合おう

唐戸商店街周辺のまちづくりの中核を担う「一般社団法人からまち」より、活動内容の紹介と現在の商店街の実情についてご報告いただきました。その後、「からと」への誘導目標者数、観光消費額期待値の推計について、コンサルタントから説明しました。



一般社団法人からまちとは？

～地域課題を地域の皆様と解決するまちづくり組織です～

経緯

- 人口減少と老朽化したアーケード問題があった。アーケードがこのままでは負の遺産になるという課題を解決すべく、商店街の組織をまずは統一することから立ち上がった。
- 下関市産業振興課を含め、まちづくりの専門家にも参加してもらい、勉強を重ねた。
- 四つの通り会(中央通り、棧橋通り、銀天街、ふれあい通り)を協同組合唐戸商店会に統合し、赤間本通り商店街振興組合の事務局を「からまち」が担うことで事務局を一本化した。
⇒令和4年5月 商店街有志にてまちづくり会社「一般社団法人からまち」を設立

活動実績

- 令和4年度
補助金の活用等による、組合の取り組み
◇組合員の事業を動画でPR ◇アーケードの一部分を改修 ◇インバウンド対応看板制作他
【中小企業庁】面的地域価値の向上・消費創出事業 採択
◇Webアプリ、観光マップづくり ◇AIカメラ設置、人流分析 ◇パークレット設置他
【中小企業庁】地域商業機能複合化推進事業 採択
◇チャレンジショップの設置/POSレジ・AIカメラによる分析
- 令和5～7年度
【山口県】データマーケティング実施補助金採択
◇唐戸エリアのデータ化して分析する事業
- 令和6年度
【観光庁】オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業 採択
◇交通渋滞対策事業
【山口県】山口県共育でサポート職場環境づくりサービス創造補助金採択
◇子連れコワーキングスペースの整備（からまち事務所内）

市の指定法人

- 都市再生推進法人に指定（令和6年3月7日）
 - ・下関市による指定だが、国土交通省の制度である。
 - ・市町村や民間のデベロッパーではできない、まちのエリアマネジメントを展開することが期待されている。「からまち」は他団体と違い、地元のメンバーのみで構成される完全に民間の商店街ベースなので、その想いも含めて強みだと思う。
 - ・民間組織として、行政ができないところも含めた協議会や今後のまちづくり、市街地再開発に関わるような取り組みができたらいと思う。
- 地域再生推進法人に指定（令和6年12月13日）
 - ・地域住民に近い立場で地域再生の推進を図る活動を行う法人である。



参加者から質問

Q1

テーマやコンセプトがあるのか？活性化するための大きな課題があって、それに対して「こういうことが前提である」というような基本的な考え方があるのか？

A1

「唐戸エリアの未来をつくるまちづくり」という大きなテーマがある。様々な政策を担うことで、小さな市役所のような役割ができれば、皆さんが住み良くなるのではないかと考えている。一番の目的はエリアの価値向上である。
現在、唐戸は衰退しており、空き店舗が多く人も集まらない状況だが、魅力的な素材はたくさんある。どうすべきか考えていた中で、アーケードの劣化という課題に直面した。難しい問題だからこそ、誰かがやらないといけない。「唐戸が好きなのにもったいない」という想いがコンセプトである。

Q2

今回は唐戸地区全体の換地計画や土地区画整理まで視野に入れているのか？

A2

ワークショップが終わってから今後どうするかについては、民間ベースでやらないといけないと思う。
できるとは言い切れないが、「からまち」としては、その方向で動いていきたいと考えている。



「からと」への誘導目標者数および観光消費額期待値の推計

～「からと」へ誘導する目標者数と観光消費額期待値を試算しました～

①下関港のクルーズ客船寄港実績及び寄港予定から推計

乗客乗員約3万人/年(推計)のうち30%を「からと」に誘致すると

⇒ 約1万人

②関釜フェリー利用者

利用者約13万人/年(予測)のうち30%を「からと」に誘致すると

⇒ 約4万人

③唐戸エリアへの観光流入総数 ※「からまち」による分析

観光流入総数約100万人/年(試算)のうち30%を「からと」に誘致すると

⇒ 約30万人

関釜フェリー

日本船「はまゆう」

韓国船「星希」

※毎日1便ずつ運行(すれ違う形)

「からと」には
これだけのポテンシャルが
あると考えられます!

以上から、

「からと」へ誘導する目標者数…………… **35万人/年** (①+②+③※1)

観光消費額期待値…………… **14億円** (35万人×4,000円※2)

※1 重複もあるが漏れもあるため、単純な足し算とする

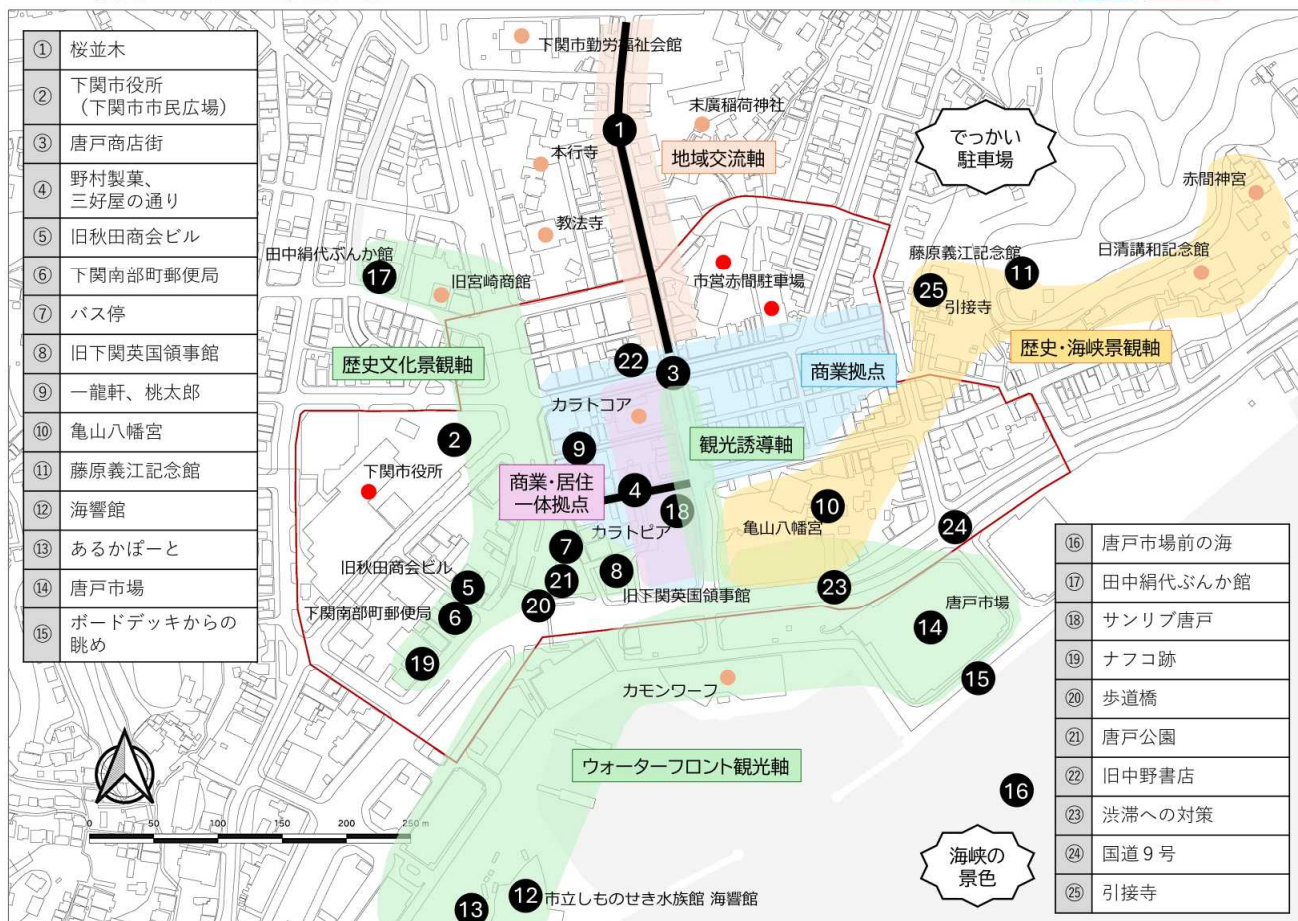
※2 唐戸エリア内個人消費額を10,000円と想定し、「からと(下図赤枠)」内消費率を40%で推計

「からと」の新たな軸と拠点の考え

過去4回のワークショップを踏まえ、事務局から将来の「からと」における軸と拠点のあり方について、「観光」「商業」「くらし」それぞれの視点から整備方針・手法を提案しました。

将来のからとの拠点と軸

観光・商業・くらし



「観光」に関する整備方針・手法

整備方針	整備手法
① 日本やこの地域ならではの魅力的な体験・食を楽しめる場所	歴史的な建造物やランドマークの保存・建築ルール
② 地域の人々や暮らしを体験、地域住民との交流	マッチングシステム 窓口体制構築 温泉や足湯などの交流の場 夜市のボランティア
③ 国籍関係なく楽しめる観光地	多言語案内・地図 多次元コード・アプリ 通訳付き観光ツアー キャッシュレス対応”
④ 神社や海峡の歴史を学べる場所	関門のパイロット協会の協力 案内人
⑤ 海峡の景色を活かした観光地整備	海峡が見える芝生 建物で景色を遮らない 海峡沿いのホテル、飲食店の協力 沿岸部の回遊ルート整備
⑥ 一息つける場所	SNS情報提供 地域住民のおすすめ情報を共有する場所 温泉・サウナ施設誘致
⑦ 沿岸や他地区の観光客を誘導する仕組み・円滑な移動	SNS情報提供 亀山八幡宮と赤間神社をつなぐ参道を桜並木にする 観光案内所 観光案内板・地図 ゴンドラ整備 国道を跨ぐベデストリアンデッキ 商店街付近に駐車場整備 路面電車の復活 レンタサイクル ランステーション シェアスポット 関門協力でのツアー
⑧ 子ども連れも楽しめる場の整備	トイレの整備 休憩所 育児スペース 体験型施設 ショッピングモール 娯楽施設

「商業」に関する整備方針・手法

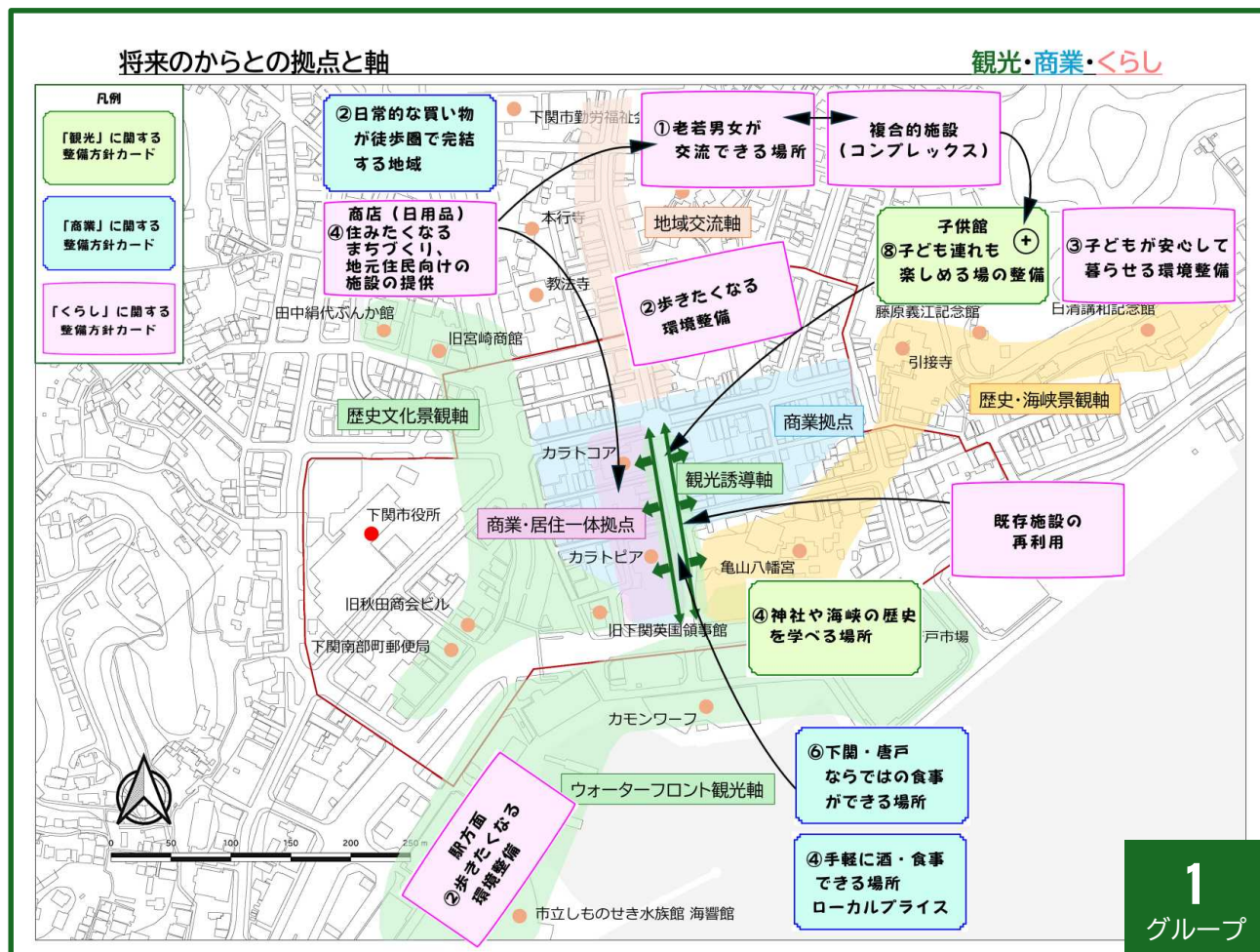
整備方針	整備手法
① 移住者の増加につながる整備	企業オフィスの誘致
② 日常的な買い物が徒歩圏で完結する地域	スーパー・コンビニの誘致 ショッピングモール誘致 店舗の集約 商店街全体で1つのスーパーの機能に
③ ウィンドウショッピングができる、歩いていて楽しい商業地	空き地・空き店舗・空き家の有効活用 店舗の集約 歩行者天国 ナイトツーリズム
④ 手軽に食事できる場所	
⑤ 観光客が来ても自由に車を出したい	駐車場整備
⑥ 下関・唐戸ならではの食事ができる場所	外国人にもわかりやすい看板 SNSによる店や市場の情報提供 子どもがゆっくり食事できるスペース 海峡の景色を楽しめるカフェや飲食店

「くらし」に関する整備方針・手法

整備方針	整備手法
① 老若男女が交流できる場所	文化センター 料理等趣味教室 カラトピアの空スペース活用 認知症カフェ
② 歩きたくなる環境整備	サンリブ活用 スクランブル交差点 散歩コース ランステーション 住民や店舗が植栽する
③ 子どもが安心して暮らせる環境整備	公園 芝生広場 全天候型の遊び場 遊びに規制のない場所(ボールやスケートボード等) 塾 駄菓子屋 こども食堂 子ども会や町会による魚釣り大会
④ 住みたくなるまちづくり、地元住民向けの施設の提供	街中のバリアフリー化 コインランドリー 本屋 カラオケゲームセンター 生活関連サービスの提供 各施設の市民割 物件を探せる施設や仕組み 自治体のルール周知

まちづくりの軸と拠点をつくるためのアイデアを整理

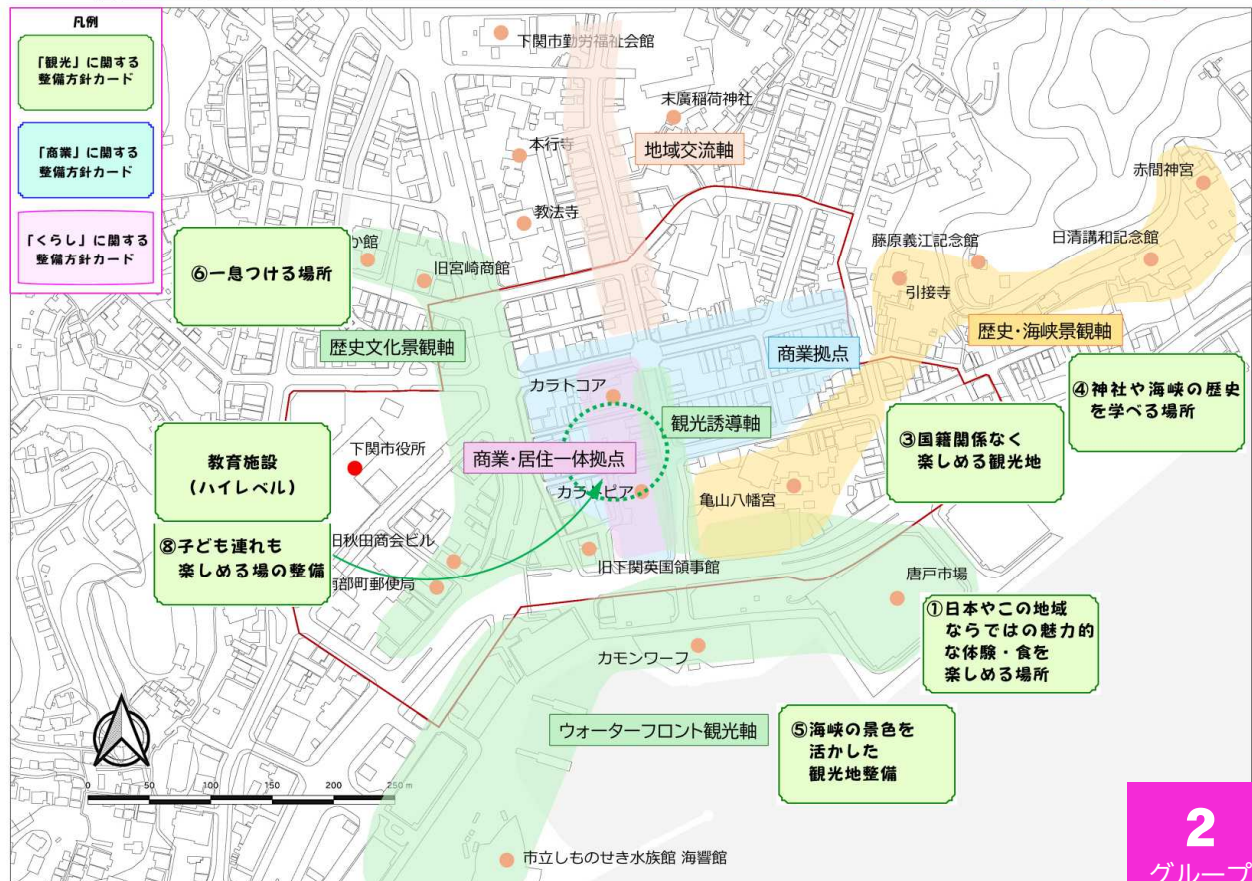
提案された軸や拠点ごとに、優先すべき整備方針のカードを選んでいただきました。その後、グループごとに、どのような話し合いが行われたのか、全体場で発表していただきました。



1 グループ発表

- ・唐戸ドームからカモンワフまでの通りを、人が集まる場所、人がいる場所にする。住む人も来る人もここに来れば、ここから派生的にまちが広がり、活気が出てくるのではないかな。
- ・保育園もあるので、老若男女が交流できる場所にするといい。
- ・魚や肉を買う店はポツポツあるが、日用品を買う店がない。
- ・ワンオペで子育てをしている人や共稼ぎの若い夫婦が、子どもを安心して預けたり遊ばせたりできる場所、あるいは子どもが暮らせる環境の整備が必要だ。そんな複合的に満足できる施設が必要ではないかな。10年20年経つと人が変わっていくので、それに対応できるようなフレキシブルな施設を、専門家や建築家を呼んで、デザインしてもらってはどうか。
- ・外から来た船員さんなどが手軽に食事できるようなお店(施設)が核としてあればいい。
- ・桜並木が延長される予定なので、ここを整備していくと(まちが)広がっていくのではないかな。
- ・下関のへそと呼ばれている唐戸を中心に、神社や海峡の歴史が学べる史跡もある。ここから下関駅までの道すがら、もっと楽しく歩けるような環境整備ができてくるのではないかな。





2 グループ発表

- ・人口を増やさないことにはどうしようもない。観光客と定住者のどちらを増やすのか。定住してもらうためには魅力的なものが必要であり、ハイレベルな教育施設や教育機関があれば、県外や市外から人を呼び込めると思う。私自身、子どもが3人いる。
- ・下関市にインターナショナルスクールは一つしかなく、そこに人が集中して満杯な状態が続いている。そこには県外や市外の人でもわざわざ通っているが、卒業後の進路がないので、引っ越しをしてまで県外や市外へ出て行ってしまう状況がある。
- ・中心部分に幼稚園から小学校、中学校、高校、大学までつくれると、継続していい教育が受けられるので、定住が進み流出も減る。
- ・人が増えれば、飲食店や商業施設も商売として成り立つ。一番やってはいけないのは先に公園や商業施設をつくることだ。順番を間違えると商売として成り立たず、お金がもったいないので、先に人を集めるための教育に力を入れることが必要だ。
- ・下関は歴史的な壇ノ浦や亀山八幡宮、下関条約の舞台となった春帆楼など、教科書に出てくるような場所を目で見て体感できるので、教育にはとても適している。
- ・この教育施設は、それによって人口が増えるほどのハイレベルなもの、例えばラ・サール小学校のようなイメージだが、そういうコンセプトもあっていいと思う。
- ・モービィのような全天候型の遊び場があるといい。そうしたハイレベルな教育とハイレベルな遊び場の周辺に居酒屋などが進出する際に、行政としても、規制緩和をしたり、法令を変えたりするなど、できることがあるのではないかな。





3 グループ発表

- ・駐車場について、回数券を郵送で購入する方式に変わり、送料がかかるため割引の恩恵を受けられない状況だという不満が出ている。行政側でも検討してほしい。
- ・そもそも人口が少ないので買い物をする人が少なく、サンリブが閉店したような流れにつながっている。唐戸で日常的な買い物をする場所、特に100円ショップがなく不便を感じている。そもそも買う人がいないと商売が成立しないので、若年層の流入や定住を増やすような取り組みをすることだ。空き家や空き地があることが分かっているなら、若い方が住める物件に変えるような取り組みが何かしら必要だと思う。
- ・子どもが安心して遊べる環境がない。前回のワークショップでも指摘があったように、まずは不足している公園などの整備を徐々に進めていったらいいのではないかな。
- ・渋滞が起きて車が出せずに住民が困っているという点は分かっていることなので、唐戸市場の流れをもう少し工夫する必要がある。
- ・沿岸の観光地エリアと、そうではない商店街側のエリアは、国道をまたいで人の定義(目的)が全く違うと思う。地元住民に対しては、今回のワークショップで「しもまちポイント」の付与があったが、何かフックとなるものを仕掛けて歩かせる、飲食させる、買い物させる流れをつくるといい。観光客に対してはポイントではない何か、当日有効な何かで促した方がいいのではないかなという意見が出た。
- ・日常的な買い物と、その流れをどうつくるかという意見が主に出了。



感想カード

ワークショップに参加して感じたことや言い足りなかったことなど、自由に書いていただきました。

- 若い方々(子どもを含む)に対しての集まる場所づくり、環境づくりがこれからの時代に大事かと思いました。
- 心の底からハイレベルな教育施設が欲しい。元移住者として教育が移住先を決めるのに大きな要因となります。定住者を増やして税収も増やす、その後に商業施設や飲食店をつくる。この順番を間違えると、よりいっそう衰退を招く結果となると思います。本日は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- 今回「ハイレベル教育施設」という新しいコンセプトが出て来て、より議論が進化したのではないかと思います。人口減少という状況の中で、何を優先するのかは意味があると思う。
- 町の発展が少しでも進むよう祈っています。とても充実していました。ありがとうございました。
- 様々な知見と方向性を色々な立場の方から聞けてよかった。実際の実現化にあたり、子育て、観光など縦割りではなく総合的に進めてほしい。
- とても勉強になりました。いいですね、なかなかこんな機会ないので。
- 唐戸商店街がもっと楽しい場所になる事を願っています。勉強になりました。
- 色々な意見が聞けて良かったです。またワークショップをやってほしいです。
- 5回のWSに参加して、自分達の街について考える良い機会となりました。恐らくどの地方都市でも起こっている深い問題が我が街にもあると深く認識しました。
- 空き地、空き家etc.のマップは現地の人間が作らないと、そこが大きいと思う。議論する内容をもう少し具体的に、現実的なものを沢山増やした方がいいと思う。
- 全5回のワークショップ、お疲れさまでした。今後どうなるのか、どうするのが大事だと思います。具体的なところを行政、住民、各種団体が連携して進めていくことを望みます。
- 口コミやリアルな情報は白地図を使ってイメージが湧く、情報が集まるものではないです。少人数でもよいので「まちあるき」を実際にした方がよいと思います。土地勘のない方の誤った情報を正す場になってしまうとワークショップが成立しない。もったいないです(下手に公表すると良くない印象にもつながるのでは…懸念されます)。人口が減るからさびれる(商業の衰退)のは当たり前で、郊外の人口増加を中心市街地にもってくる発想がないといけないというのは改めて感じました。コンパクトシティ唐戸(～下関駅)を考えてほしいです。ありがとうございました。アンケート反映、しもまちポイント付与、ありがとうございました。

全5回のテーマ(参考)

- 第1回 地区の良いところと課題を共有しよう！
- 第2回 地区の将来像をイメージしよう！
- 第3回 エリアごとの役割や方向性を考えよう！
- 第4回 「観光」×「商業」×「暮らし」で まちを描こう！
- 第5回 「からと」の将来像を共有しよう！



●事務局より

今回はこれまでのワークショップで話し合った内容も再確認しながら、集大成として、「からと」の将来像を皆さんと共有しました。全5回を通じて、「観光」、「商業」、「暮らし」という3つのテーマが密接に関わっていることが、参加者の共通認識として深まりました。

このワークショップは今回で一区切りとなりますが、これからは皆さんが描いたまちの姿を参考に、「からと」のまちづくりについて考えていきます。これからも「からと」の将来に興味や関心を寄せていただけますと幸いです。昨年12月から多くの方にご参加いただき、本当にありがとうございました。

下関市 都市整備部 市街地開発課 再開発係 TEL: 083-224-2025

ホームページURL: <https://www.city.shimonoseki.lg.jp/soshiki/75/140773.html>

